

教育者としての「使命感」・「人間愛」・「創造力」を有する教員の養成を目指す

2015  
**秋**  
No.32

# JUEN

【ジュエン】  
Joetsu University of Education

国立大学法人  
上越教育大学  
Joetsu University of Education  
学園だより

上教大生が取り組む復興支援

特集

# Action By JUEN の軌跡



「人を賢くすること」を  
考える

# 研究室



# ようこそ

探究できない教師に  
探究の授業は創れない

専門は教育方法学、学習科学。「授業研究」が研究対象です。心理学をベースにしながら、研究課題にあわせて研究方法を選び、組み合わせ、時に創りだしてきました。ゼミでは、学生各自もテーマを自由に設定し、研究をすすめる目的にあつた研究方法を選びます。そのため研究方法の指導が中心です。自分の決めたテーマで研究をやりぬき、その答えを見つけていく「探究」に挑みます。「探究ができない教師に探究の授業は創れない」。この言葉をモットーにゼミ生たちは、各自の探究をすすめます。でも、一人ではありません。週に1度のゼミで仲間と発表し合い、刺激し合い、支えあうことで、仲間の探究からも学びます。

子どもたちの学びから授業を考える

私は2つの「授業研究」の研究者です。一つは授業過程の分析する授業研究。もう一つは日本発祥の協働的な教師の校内研修である「授業

河野 麻沙美(かほの まさみ) 学校教育学系 講師

お茶の水女子大学生活科学部卒業後、東京大学大学院教育学研究科に進学、博士号(教育学 東京大学)を取得。東京大学学校教育高度化センター助教、海洋教育促進研究センター特任講師を経て、平成25年10月本学着任。博士論文題目「算数授業における図的表現が媒介する協働的な学習過程の検討：社会数学的規範の形成とインスクリプションによる知識構築（風間書房）」。多様な領域の理論や先行研究を生かして実践にアプローチし、学習や教育の「文化」を研究している。



探究」。今や世界に広がる「授業研究」をより深く理解するために国際共同の中です。この2つの「授業研究」は少し違う領域での研究ですが、「子どもたちの学びを基に、授業のことを考える」という点は共通しています。「人が賢くなるってどういふこと？」という学習科学のテーマから出発し、その支援を考えます。大学院では、2つの「授業研究」の方法論や、最近良く聞く「アクティブラーニング」を探究の道具として、ゼミでも個別指導でも授業でもしています。

子どもも学べる・子どもも楽しめる

今やどこでも意思があれば、学べます。長らく東京にいたのですが、上越に来て改めてこのように思いました。生まれ育った土地とも何もかも随分違うので初めは正直とても困りました。ただ環境が変わったことで新しい経験や関係が日々増え、楽しみも増えました。田舎ゆえの不便さすらも「工夫する力」を伸ばしてくれる糧になります。そんな学習が私以外にも広がればと思います。



普通の大学生活の中では  
決して出来ない貴重な経験

## 私が今がんばっていること

私が今大学生活で力を入れていることは、「学びのひろば」です。現在は事務局長を務めさせて頂いており、他のスタッフと力を合わせながら、毎月多くの子どもたちを招き入れ、様々な活動を安全に楽しく行うためのお手伝いをしています。

## 学びのひろばに参加したきっかけ

私は、1年生の時から学びのひろばの活動に参加しており、今年で3年目になります。私が学びのひろばに参加したきっかけは、上越教育大学に入学して最初のオリエンテーションで行われた、学びのひろばの紹介です。その時私は、1年生は全員参加しなければいけない、と勘違いしており、(実際は自由参加です。)特に何も考えず希望用紙を提出しました。当初は、子どもと遊べるし、知り合いも増えそうだからとりあえずやってみようかな、くらいの軽い気持ちでした。今となってはその勘違いもよかつたのかな、と思います。

## 学びのひろばの活動を通して

学びのひろばでは、毎月子どもたちに楽しい活動をしてもらうために、授業の合間の昼休みなどで話し合いをしています。学びのひろばには9つのクラブがあるのですが、それぞれ工夫を凝らした活動をしています。私もそのうちのひとつのクラブに所属し、様々なことを経験しました。子どもたちと関わることで、子どもへの接し方、声のかけ方などたくさん学ぶことがあるのはもちろんですが、同じクラブの仲間との日々の話し合いの中でも、勉強になることばかりです。先輩後輩関係なく、日々活発に意見交換がされています。

## 今後について

学びのひろばは、普通の大学生活の中では決して出来ない貴重な経験が出来る場であると考えています。そんな貴重な場を来年も再来年も、後輩たちが続けていけるよう、今年の活動は残り3回となりましたが、自分の出来ることを精一杯やっていきたいです。

## 学部3年 教職デザインコース

たなべ りょうすけ  
田邊 亮典 さん

\*学びのひろば  
「学びのひろば」は、平成10年度に上越教育大学フレンドシップ事業の一環として始まり、「学生が子どもたちとふれあい、子どもの気持ちや行動を理解し、教員としての実践的指導力の基礎を身につける」ことを目的に実施してきた事業です。

活動の企画・運営は、すべて学生が中心となり、所属する9つのクラブが「子どもたちの笑顔」のため徹底的な議論を重ね、年7回の活動日に、近隣の小学校に通う子どもたちとレクリエーションや野外活動、工作、運動、2泊3日の宿泊活動などを実施しています。

Action  
A  
By  
B  
J  
JUEEN

上教大生が取り組む復興支援

の軌跡



**被災地ボランティアについて**

震災の年の8月、有志を募って被災地へ日帰りボランティアツアーを企画しました。くしゃくしゃになった自動車の残骸、崩れ落ちた家屋、茶色に変色した草木、声をなくす風景の中でがれき処理を行いました。参加した学生たちが初代ABJを組織し、その後のツアーはボランティア支援室との共同実施という形になりました。今ではオリジナルメンバーはいなくなりましたが、その気持ちはずっと受け継がれています。この夏、10回目のツアーを行いました。すでに遠い過去のこのように思えますが、被災地に行ってみるとまだまだ復興の行き先が見えない現実があります。現地に立って日頃見せているのとは違う顔を見せる学生に、私は教師の魂の息吹を感じます。



ABJミーティングの様子

東日本震災の復興支援を目的に上越教育大学では、株式会社JT B様との共同企画により「被災地ボランティア」を平成23年8月・9月に実施しました。

ボランティアは市民の方をはじめ、本学の学生・教職員が参加し、仙台市若林区において畑のがれき撤去を行いました。

このボランティアに参加した学生を中心に、より多くの学生に被災地に足を運んでもらいたいという思いから、実際に被災地に向かうボランティア活動を企画するため



学校ボランティア支援室長  
教授 石野 正彦

ABJ代表からの言葉

私は、自分が1年生のときからボランティアツアーの運営に携わってきました。そこで、メディアでは見ることのできなかった被災地の現状や、年々変わっていく姿、被災地の人たちがどんな事を求めているのか、ここには書ききれないほどのたくさんの想いを感じ、皆さんに伝えていきたいと思い、ABJの代表をさせていただいています。

被災地へ訪れたことのない方は、ぜひ訪れたことのある人に話を聞いてみてください。興味があれば、何年後でもいいので、ぜひ被災地に行ってみてください。そこで被災地の声を聞き入れていただけたらと思います。

ABJ代表  
学校教育学部 学校教育専修  
臨床心理学コース  
3年 大島 みちる



2011~2015

これまでの被災地支援のようす

過去には、田畑のがれき・ゴミの撤去作業を行い農地再生に努めたり、津波の被害を受けた建物の視察を行ったりするなどして、被災地の現状について理解を深める活動を進めてきました。また、ときには、仮設住宅で過ごされている方のクリスマス会の一環として、スポーツチャンバラという競技で汗を流すなどして、交流を図ってきたこともありました。

参加者の皆さんは、現地で見聞きしなければ分からない状況を受け止めつつ、自らにもできる支援を行い、被災地の方々の力となってきました。

これからも被災地に赴く支援活動を継続するとともに、上越地域や近隣の学校へ、被災地の現状を伝え、発信していく活動を大切にしていきたいと考えております。



メンバーからの言葉



ABJ 昨年度副代表  
学校教育学部 教科・領域教育専修  
言語系コース(英語)  
4年 武田 潤也

私は友人の誘いで学部1年の時にABJに参加しました。生まれ育った福島をはじめ東北の地に少しでも貢献できたらと思い、活動をしてきました。

しかし、当然のことながら実際に震災があった土地を訪れて最も感じたのは絶望感でした。現状で自分に何ができるのか。また、帰りの道中、自分がしてきたことに何の意味があったのか。はじめのうちは、そればかり考えていました。

そうした中で私たちが気付いたことが「発信」でした。自らの経験を上越地域や近隣学校に発信することで、震災を忘れない気持ちを改めてもつことができました。自分たちの経験を教育現場に出ても貴重な糧としていきます。

ABJメンバー募集中!

興味のある方は、知り合いのABJメンバーか、学校ボランティア支援室までお願いします。

12:00 雄勝港で昼食  
14:30 石巻港～石巻市立門脇小学校(跡)  
～日和山公園

石巻港の復興ぶりはめざましく、瓦礫の山山…の様子に衝撃を受けた3年前とは大きな違いがありました。立ち並ぶ水産工場と道路、煙を上げる巨大な日本製紙の工場と積まれた木材、工事中の防潮堤。海岸至近の門脇小学校では、校長の早い決断で子どもと住民が日和山に避難し、多くの命が助かりました。



1 門脇小学校跡に作られた「きずな地蔵」に頭を垂れる参加者  
2 日和山公園から臨む石巻港。この階段を駆け上り、多くの命が助かった(門脇小学校の児童はこの階段ではなく、別のルートをとったとのこと)。津波の被害を受けた一帯は未だ更地部分が多く、爪痕が残る建物も残っている  
3 石巻海岸の防潮堤(完成高度7.2m・工事中)が完成すると、陸地からは海が見えなくなる

15:25 石巻出発 帰路へ  
21:45 大学到着 全員元気に到着、解散

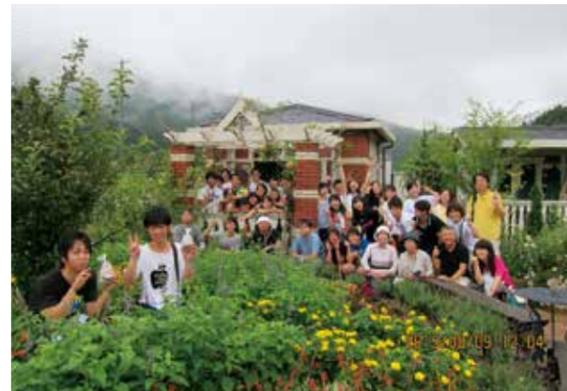
18:00 宿舎到着  
19:50 防災講話



1 昨年に引き続きメッセージ性の強いお話(石巻高校元教諭の佐藤先生による防災講話)  
2 「T-T 壱番館」(復興作業員のコンテナ型宿泊所)

8/9(日) … [2日目]  
9:00 ガーデンの作業ボランティア

除草と植栽作業(別の場所)に分かれて行いましたが、途中降雨のため中断しながらの作業でした。全身雨で濡れましたが、予想外に涼しい中で作業で能率が上がりました。



参加者数/36人(学内32,一般4)  
内容/石巻市立大川小学校(跡)、石巻市立雄勝小学校(跡)視察、現地関係者による学習会  
雄勝ローズファクトリーガーデンにおける除草、植栽作業  
石巻港、石巻市立門脇小学校(跡)、日和山公園視察

15:20 雄勝(おがつ)  
ローズファクトリーガーデン

ガーデン内の研修室で、所有者の徳水様より、津波当日～3日間の様子の説明を受けました。地形による津波の速度や脅威について、VTRを使っただけの説明に息のみました。その後、震災語り部ガイドの佐藤さんから、当日の雄勝小学校児童の避難の様子についての話を聞き、切羽詰まった状況や教訓に、切なさと共に教師の責任の重さを強く感じました。



1 ガイドの佐藤さんと登り説明を受けた、児童が避難した山道  
2 避難した山中から臨む小学校跡(今は太陽光パネルが設置されている)

第10回 被災地ボランティア



8:00 大学出発  
14:30 大川小学校(跡)

8/8(土) … [1日目]

本ツアーでは4回目となる大川小学校ですが、残されている校舎の様子にはいつも心が痛みます。今回のツアーは学部1年生の参加も多かったのですが、彼ら10代の若者から70代の参加者全員が言葉も出ない状況になりました。



1 大川小学校跡 2 説明する石野教授(背後には逃げるべきか迷った山) 3 津波が押し寄せた方向と、その脅威を感じさせる跡

**災害支援ボランティア**

上越教育大学では、小学校・中学校等からの支援要請に基づき、東日本大震災に伴い避難している新潟県等に居住する児童・生徒等への学習支援等のため、学生ボランティアを派遣します。

災害支援室(総務課)  
TEL 025-521-3216 FAX 025-521-3220  
E-mail houki@juen.ac.jp

高校生だった私は何の支援もできませんでしたが、大学に入学し、まさにやりたいことがABJでできると思い、参加しました。初めて被災地に行き、津波の被害の様子を見た時は、テレビで見るとは比べ物にならないぐらいの衝撃を受けました。震災から4年半が経ち、もう忘れかけている人も多々ありますが、まだまだ被災地は復興の途中です。ABJでの経験を活かし、被災地の現状や震災・津波のことを多くの人に伝えていきたいです。将来教職に就いたら、この経験を防災教育に役立てたいです。

テレビなどで被害の様子を見て、震災についてもっと知りたい、何か役に立つことがしたいと思っていました。地元から被災地は遠く、



ABJ メンバー  
学校教育学部 教科・領域教育専修  
自然系コース(数学)  
3年 寺門 香音

私は東日本大震災が起こった当時、被害の甚大さを知っていながら、何も手助けをすることができませんでした。大学に入学してABJを知り、自分にできることがあるなら少しでも助けになりたいと思い、参加しました。ABJに入り、実際に被災地を訪れ、行ってみたいと分らないことがたくさんあると感じました。津波の被害にあった建物や土地の様子を見たり、被災された方の話を聞いたりして、感じたこと、学んだことが多くありました。今後は、自分が行って感じたこと、学んだことを伝える活動を積極的に行い、被災地の現状や被災された人の思いを多くの人に届けられたらと感じています。



ABJ 今年度副代表  
学校教育学部 学校教育専修  
幼児教育コース  
3年 山田 朋美

おすすめ! BOOK 紹介

寒い日は家でまったり本を読みたくありませんか? そこで、学生がおすすめする本をご紹介します! 気になったものがあつたらぜひ、読んでみては…?



マナー・デ・ジョーキョー先生



「ハリー・ポッターと賢者の石」

J.K.ローリング 作 / 松岡佑子 訳  
ダン・シュレンジンジャー 画 / 静山社 刊

●どんな内容?  
意地悪な親戚の家に引き取られたハリー・ポッターは、ある日自分が魔法使いだと知る。魔法学校ホグワーツで出会ったロンとハーマイオニーとともに、賢者の石を守るため、ハリーが様々な危険に立ち向かっていくお話。

●お勧めポイント!  
読みだしたらやめられない! 映画ではカットされてしまう場面がたくさん出てくるし、映画で見た人物の声や顔をあてはめながら読むとすごくおもしろいんです! だから映画を見た人にこそおすすめします!

学部3年 社会系コース  
村山若菜



「GO」金城一紀 著 株式会社KADOKAWA 刊



●どんな内容?  
主人公の僕は在日朝鮮人から在日韓国人へと国籍を変え、民族学校ではなく都会の男子校に入学した。その選択はなかなか難しいものであり、僕やその周りでは様々な出来事が起こる。そんな中、友人の誕生日パーティーで一人の女の子と出会う…。

●お勧めポイント!  
直木賞をとり、映画化もされた作品です。書いたのは、岡田准一さん主演のドラマ「SP」などの脚本家としても活躍の金城一紀さん。実はこの小説、金城さんの半自伝的小説なのです。そのため、この中で語られることは非常に説得力があります。ただ、そういった差別や偏見といった問題を扱っているにも関わらず、すごくポップでさわやかな内容になっているところにこの物語のすばらしさがあると思います。そういった問題について考えるきっかけとしてもよし、単純に青春恋愛小説として楽しむもよしの小説です! たくさん読んできた小説の中でも、ホントに面白い小説なので読んでみてください! 本嫌いの人でも短いのですぐ読めますよ(^^)

学部2年 臨床心理学コース  
池田成克



「日本の大和言葉を美しく話す」

「一ところが通じる和の表現」 高橋こうじ 著 東邦出版 刊

●どんな内容?  
この本は私たちの祖先が創り出した「大和言葉」を、「語り」「もてなし」「言伝」など生活の様々な場面ごとに紹介しています。たくさんの同じ意味の言葉の中から伝えたい気持ちに沿った表現が見つかると思います。

●お勧めポイント!  
「ちょー」に代わる大和言葉って…何でしょうか? この本では心に沁みる「このうえなく」素敵な言葉が豊富に紹介されています。絵も美しくて堅苦しくなく、手に取りやすいです。漢語や外来語に溢れた現代に温かみのある、味わい深い大和言葉に触れてみてはいかがですか(\*^^\*)

学部2年 言語系コース(国語)  
稲垣樹里



「カラフル」森 絵都 著 文春文庫 刊



●どんな内容?  
生前に「大きな罪」を犯したという「ぼく」の魂が、天使の世界の抽選に当たって、人生のリセットのチャンスを得る。そのために、自殺を図った少年の身体を借りて、自分の生前の罪を思い出すために下界で修業をするお話。

●お勧めポイント!  
人にはいいところもあるし悪いところもある。優しい気持ちになるときもあるし、意地悪な気持ちになるときもある。読むとすっきりとした前向きな気持ちになれる本です!

学部4年 言語系コース(英語)  
木村理奈



「博士の愛した数式」小川洋子 著 新潮社 刊

●どんな内容?  
事故によって80分の記憶力しかもたない元数学者の博士、家政婦である私、そして私の10歳の息子の物語。博士にとって毎回初対面になる私と息子。ごちない日々も、次第に驚きと喜びに満ちたものになっていく。あまりに悲しく温かい、愛の物語である。

●お勧めポイント!  
とにかく博士の仕草と「私」の息子への深い愛情にほっこりする作品です。特におじいちゃん好きな人におすすめ! 数学が好きな人も嫌いな人も、博士の数への熱い思いで数の美しさのとりこになるかもしれません。

学部4年 自然系コース(数学)  
白石 優



編集後記

協力してくださったみなさん、ありがとうございました!



学部2年 言語系コース(国語) 飯塚 陽  
学部2年 社会系コース 河合真樹

## 坐禅・不識会

### 座禅とは

「人間は、どうしても自分中心に、ものごとを考えてしまいます。自分が得する行動すなわち「我」です。我を通そうとすることで、そこに悩みや、怒り、恨み、嫉妬心、そして欲が、といったいわゆる煩悩が心に自然に発生して来るのです。この煩悩も、我も相手があって発生するのです。煩悩を少しでもなくす。自分の我、欲をどうしたら無くす事が出来るか？その修行をするのが「座禅」なのです。(大心堂 HP より)」

### 座禅のすゝめ

私たち、坐禅・不識会は、年に3~4回、春日山の林泉寺にて座禅を行っています。林泉寺は戦国武将上杉謙信ゆかりのお寺で、518年の歴史があります。春には桜のピンクが、夏には草木の深緑が、秋には木々の紅葉が、冬には雪の純白が境内を鮮やかに彩ります。そんな林泉寺の本堂にて、人柄の良い和尚さんが分かり易く丁寧に座禅の作法を教えてくださいます。

皆さんは座禅のイメージというとういうものを思い浮かべますか？「小一時間、

足が痺れそうなのを我慢してじーっと座っている。汗もぬぐえない。そして、眠くなってうとうとしたり、何か他事を考えていると後ろから長い棒で叩かれる。痛ってえ…。」私の持つ座禅のイメージはこうでした。しかし、林泉寺での座禅は私のイメージと全く違いました。林泉寺での座禅の所要時間は約30分で、足の組み方も誰でもできる楽な組み方(半端座)で行います。長い棒(警策)で叩かれることもありません。正しい作法で誰でも座禅を体験することが出来ます。前回はキューバからの留学生も参加し、日本の文化を楽しんで体験していました。もちろん部員全員、座禅は初めてです。部員ではなくても誰でも参加可能です。ご興味ある方は是非お友達と一緒にいかがですか？



### DATA

平成27年9月現在  
部員数/5人  
活動日/年3~4回  
活動場所/曹洞宗 春日山 林泉寺

【取材協力者】  
M2 学校臨床研究コース  
(学習臨床研究)  
長尾 宏

## フットサル部

### フットサル部紹介

僕たちフットサル部は、できたばかりの新しい部活です。部員数は、10人と少ないですが、楽しくフットサルをしています。今年は、ビギナズリーグへと出場しており、5月から12月までの年間を通して大会参加をしています。冬の大会が中心で、今年も、3つの大会へ出場予定です。練習日程は、週4日で、体育館を使用して練習を行っています。また、他のフットサルチームと練習試合を行うこともあります。

練習の内容については、私自身、まだまだフットサルの知識が乏しい為、部員と一緒に話しあい、練習内容を考え、どのような練習をしていったらよいかを考え、取り組んでいます。初心者も多く、まだまだ未熟なチー

ムですが、一生懸命練習に取り組み、一歩ずつ勝利のために努力しています。

### 部員同士の連携を第一に

フットサル部は、先輩後輩の仲がよく、練習では、互いの改善点を言い合い、よりよいプレーをするにはどうしたらよいかを常に考えています。チーム力を高めるために、部活内での会話を大切に、のびのびとプレーを行うために、部員同士の連携を第一にしています。また、技術向上のためにコーチを招き、練習を行っています。頻度は少ないですが、フットサルの基礎を中心に指導をいただき、練習に取り入れています。私自身、サッカーやフットサル経験がありませんでした。ですが、この部活に入り、フットサルをしていく中で、フットサルの楽しさや、仲間とのプレーをすることの充実感、上手くなるための努力など、様々な経験ができました。

どなたでも、フットサルはできます。私たちと一緒にフットサルをやりたい方を募集しています。ぜひ一度見学に来てください。

### DATA

平成27年9月現在  
部員数/10人  
活動日/月曜日 20:30~22:00  
火曜日 16:30~18:00  
木曜日 16:30~18:00  
土曜日 20:30~22:00  
活動場所/体育館  
活動実績/ビギナズリーグ 柿崎フェスティバル 上越選手権 妙高選手権

### 【取材協力者】

M2 教育実践リーダーコース  
城石 雄飛



## 附属学校だより

### 上越教育大学 附属小学校

「夢」の実現に向かいながら  
生きるよろこびをつくる

★「創造活動」をご紹介します★

昨年度より、文部科学大臣指定研究開発学校の指定を伴って研究を進めています。  
今年研究から、「今を生き明日をつくる子どもが育つ学校」を研究主題に掲げた教育課程研究を立ち上げました。  
研究過程の中で相互につながりあう四つの教育活動「創造活動」「実践道徳」「実践教科活動」「集団活動」を創設し、創造活動を中核に位置づけながら、「夢」と感動のある教育活動をつくっています。



### 4年2組 山を歩む

山で遊び、山で出会う人・もの・こととかかわる活動を通して、山の楽しさを味わい、自然とともに生きることについてのとらえをひろげていきます。



### 1年1組 めいめいまきば

ヤギ、ヒツジと一緒に遊んだり生活する場をつくったりする活動を通して、仲間や場とかかわりながら、自分のよさに気付く、自信を深めていきます。



### 5年1組 森とともに

森にかかわる中で、身体と森が一体となり、森のもつ生命観を感じるとともに、森での営みを探り、人間の在り方についての考えにふれています。



### 2年1組 ときどきファンタジー

身近な環境を非日常につくり変える活動を通して、空想の世界に思いを馳せながら、遊びの楽しさをひろげています。



### 6年2組 いまどきズームアップ

身近な人・もの・ことなどの魅力を映像として編集・加工したり、発信したりする活動を繰り返すことを通して、生み出す楽しさを味わいながら、地域や人とつながりをつくっています。



### 3年2組 うるん朝市

朝市の人・もの・ことと繰り返しかわる活動を通して、季節の変化や人々の思い、朝市の魅力を感じとりながら、したいことやできることを考え、進んで実践しています。



修了生からの  
お便り



## 教師育成に掛ける ～情熱と使命感～



さらに、専門学部（人文・理・農・工・繊維）生の就職関係の授業も担当して

現在、私は信州大学 学術研究院総合人間科学系 教職教育部に勤めています。主な研究領域は社会科教育学（金融消費者教育）の指導法・教材開発です。この研究成果を活かし、現職教員を対象にした教員免許状更新講習を担当しています。

また、上越教育大学での学びのお陰と実感しています。

大学院修了後は中学校現場に戻り、2年間の研究成果を生徒たちに還元しようと授業開発に取り組んできました。社会科の授業構成をはじめ、理論と実践を融合させた授業の原動力を培うことができたと実感しています。

私は、新潟県の現職派遣教員として社会系コースに在籍させていただきました。大学院では、「金融に関する消費者教育の授業改善」をテーマとして研究を行いました。公民教育・地理教育・歴史教育に関する専門的な知識や具体的な教育法を先生方から懇切丁寧に教えていただきました。

授業は主に「生徒指導」「特別活動」「キャリア教育」と「教職相談（教員採用試験に向けた試験対策指導を含む）」を担当しています。学生から「学校での実践経験を基に具体的な事例を扱いつつ、授業を通してわかるのでわかりやすい」「ファシリテーションの手法を活用した授業は思考力とコミュニケーション力が高まる」などという感想をいただきました。

また、信州社会科教育研究会松本支部に所属し、松本近郊の先生方と一緒に社会科の教材・指導法の開発など社会科の授業作りに参画しています。今後、これまで以上に「情熱と使命感」を持ち、日本全国各地に優秀な教員を輩出すべく職務に邁進していきたいと思っています。



田村 徳至  
(たむら よしみち)

新潟県加茂市出身。平成18年3月修了後、新潟県公立中学校勤務を経て平成25年4月より信州大学

の専任講師として勤務。公立中学校勤務時代、中越社会科研究会に所属し「主権者教育」や「行動経済学の概念を活用した金融経済教育」を実践してきた。現在、信州社会科教育研究会・松本支部にも所属し、主に松本近隣の中学校社会科の先生方の授業力向上に向けて精力的に活動している。

## 上教大 なんでも 掲示板

### 北朝鮮による拉致問題を考える パネル展を開催

7月3日(金)から17日(金)まで上越教育大学内で「北朝鮮による拉致問題を考える巡回パネル展」を開催しました。

新潟県では、一人でも多くの県民に、北朝鮮による拉致問題や特定失踪者の問題について理解を深め、関心を持ち続けてもらうため、県内各地で巡回パネル展を開催しており、上越教育大学においてもその趣旨に賛同し、同パネル展の開催により、学生及び教職員等からこの問題について考えてもらうこととしました。

パネル展を訪れた学生からは、今まで以上に身近な問題と捉え、「拉致被害者全員の早期帰国を願う。」などの声が聞かれました。

パネル展を訪れた大学生



絵画の実践活動時の集合写真

### トビタテ！留学JAPANの紹介及び ネパール留学報告会の実施

上越教育大学では、新興国コース(第1期)に採用され、2ヶ月間ネパールに留学した大学院生 竹下万生さんによる、トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラムの紹介及び留学報告会を7月17日(金)に実施しました。

前半は、動画でトビタテ！留学JAPANの紹介をした後、本プログラムの求める人材や留学計画の作成や応募方法について自身の体験を交え紹介がありました。

後半は、今回の留学で首都カトマンズやボカラを舞台に、ネパール語の学習や自身の専攻である絵画の実践活動、美術教育活動を実施したことについて報告がありました。加えて試験の流れや採用後の事前研修についてのアドバイスの他、トビタテに採用されたことで他コースの留学生も含めた人的ネットワークによる交流を通して視野を広げることができるとの報告がありました。

### 附属中学校特設合唱部がNHK全国学校音楽コンクール 関東甲信越ブロックコンクールへ出場

8月18日(火)に開催されたNHK全国学校音楽コンクール新潟県大会において、出場14校中、附属中学校特設合唱部がめでたく金賞(1校)に輝き、関東甲信越ブロックへ進出しました。関東甲信越ブロックへの出場は23年ぶりの快挙です。

9月5日(土)に開催された関東甲信越ブロックコンクールでは、会場であるさいたま市大宮ソニックシティで特設合唱部が美しい歌声を響かせました。



県大会直前練習風景

### 附属中学校女子400メートルリレーが 全国中学校陸上競技選手権大会 8位入賞

北海道で開催された全国中学校陸上競技選手権大会において、附属中学校陸上競技部が女子4×100メートルリレーの決勝(8月21日(金))に進出し、8位入賞を果たしました。

前日に行われた準決勝では49秒33のチームベストタイムをマークし、組1位通過を果たしました。



表彰式後の記念撮影

## もの思う秋

日暮れが早まり虫の音が響くようになって、秋色が深まってきました。キャンパス内の木の葉が色づき、錦秋の候となるのも間もないでしょう。爽やかな季節を迎えて、勉学や芸術などに勤しもうとしている人が多いのではないでしょうか。

### いわし雲大いなる瀬をさかのぼる 蛇笏

いわし雲は、気象学的に言うと巻積雲または高積雲のことで、小さな雲が空一面に連なって現れたものです。この句は、小さな雲をイワシに例えて、イワシの大群が一つの方向に向かって一斉に泳ぐ姿に見えることを詠んだもの



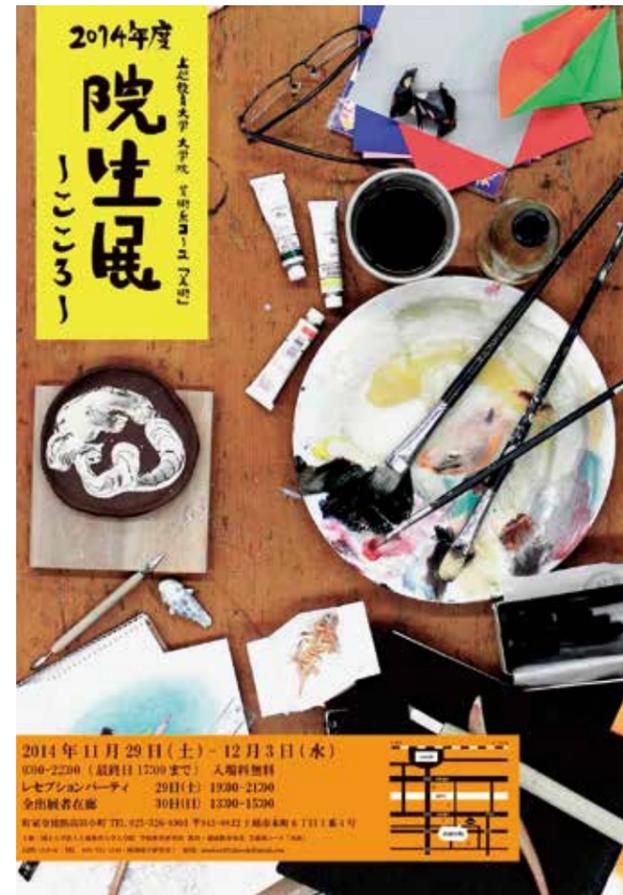
です。秋の雲は速い速度で流れることも多いので、躍動感も伝わってきます。教師を目指し、あるいは現在教職にある人が高度専門職業人としての教師を目指して、日々努力する姿に重なります。

さて、秋は夜が長く、思索にふけるのに適した季節です。もの思う秋とも言われます。現在、本学では、学生の皆さんが思考力を高めることのできるカリキュラム改革を進めています。思考力は、様々な場面で思いを巡らすこと、巡らそうとすること、考えることなどによって獲得できます。それには、注意してものを見ること、深くじっくり考えること、多角的にものを見ることなどが有効です。例えば、大学を一步出ると、水田や畑が広がっています。なぜここは水田なのだろうか、なぜ畑なのだろうか考えたことがありますか。水田や畑が立地するには、必ず理由があります。また、小説などを読むときにも、作者の意図やストーリー構成を読み取り、自分で違うストーリーを考えてみるような読み方もできるのではないのでしょうか。

最近、アクティブ・ラーニングの重要性が指摘されています。アクティブ・ラーニングとは、学修者の能動的な学習への参加を取り入れた教授・学習法の総称で、発見学習、体験学習、調査学習などが含まれ、教室内でのグループワークやディベートなども有効なアクティブ・ラーニングの方法とされています。最も大切なのは、自ら考えること、つまり思考を活性化することです。小さなことに疑問を持つ、なぜという問いかけを常に心がける、それが考えることにつながります。

とても爽やかな季節です。身の回りの小さなことについて、少し立ち止まって考えてみるのも良いでしょう。日本の教育の現状と将来、地域の教育の在り方など、大きなことについて考えてみるのも良いでしょう。様々なことを考える秋にして欲しいと思います。

学長 佐藤芳徳



「2014—こころ—」上越教育大学大学院芸術系コース(美術)院生展  
教科 領域教育専攻芸術系コース(美術) 大学院2年 西丸純子

2014年11月29日(土)～12月3日(水)に、上越教育大学大学院学校教育研究科教科・領域教育専攻芸術系コース(美術) 展覧会を、大学院同窓会より補助をいただき町家交流館高田小町(高田本町六丁目)にて開催いたしました。本展覧会は、大学院第一期生による昭和59年の第一期院生展より続く伝統あるグ

## 専攻コース院生会員への補助事業

昨年度院生展のテーマは「こころ」です。この共通テーマに向けて一人一作品以上を制作しました。ポスターやダイレクトメールには、芸術系コース(美術)の院生が普段使っている道具やモチーフ、制作風景を組み合わせ、私たちの制作現場の創造的雰囲気を含めて修了生を中心にご案内をお送りいたしました。

来場者数は54名。高田小町の雁木造りと温かみのある照明を生かした展示空間は、芸術系コース(美術)の院生方からも良い内容であったとのことお言葉を頂きました。また、来場者アンケートでは「若さと勢いを感じました」「それぞれ独自のテーマで活動しており、骨を折って努力している感じが伝わります」等の感想を多数頂戴いたしました。

今後は、修了に向かつてそれぞれ進む方向は違いますが、今回皆で作りましたこの展覧会の経験を教育現場や制作活動に生かし、それぞれの胸に思い描いている「こころ」を現実のものにしてまいりたいと思います。

ループ展です。油彩画、陶芸、彫刻、木工、デザイン、日本画、美術教育の各ゼミ所属有志による研究成果の発表です。私たち大学院2年生は、出身地、年齢、経験の異なる多様な院生が集まっており、自分たちの経験値を良い意味で生かし合い刺激し合う日々を送っています。

- 〈出品者〉  
小田いつか  
竹下万生  
滝澤秀樹  
大平修也  
坂井 泉  
益子康平  
玉木 滯  
山本和雄  
伊藤未希  
西丸純子



修了生の住所等をお知らせください 転居・転職・結婚等により個人情報の変更があった場合は、お知らせください。  
詳細については、公式ホームページをご覧ください。 [上越教育大学 同窓会](#)

お問い合わせ先 上越教育大学大学院同窓会事務局 E-mail:dousoukai@juen.ac.jp

# インタビュー 大学院で輝く人



## 教師を目指すきっかけ

きっかけは、小学生のときに、担任の先生に勧められて参加した科学教室です。小学校5、6年を通じて、自然体験活動や、理科の楽しさを感じられる実験、研究を行いました。最初は、なかなか積極的になれなかったのですが、活動に参加する内に、小学生ながら、自然の素晴らしさ、理科のおもしろさを感じることができました。そして、私ができることができた思いをたくさんの子どもたちに感じてほしい、理科を好きになってほしい、と思い教師を目指しました。

## 大学院での充実した生活の理由

充実した生活を送れる理由は、私を応援してくれる人々の存在です。院生それぞれに目指す教師像があり、実現に向けて勉強しています。そして、お互いにその姿を見て、刺激し、励まし合いながら日々成長しています。現職の方の存在も、私にとって大きな学びです。現場にいらしたときの体

## 大学院1年(免P) 学校臨床研究コース (学習臨床研究) 平澤 友里子さん

験や教える工夫など、私がまだ経験したことがないことを、教えてください。こんな先生になりたいな、と思いながら教師を目指すモチベーションを高めることができます。

## これからの自分

本学に入学し、教育漬けの毎日を送っていますが、とても楽しく充実しています。今までは、自分の進路や将来について悩んだ時もありましたが、大学院に入学し、同じ志を持った同級生や、様々な経験を語ってくださる現職の先生方や教授の皆様と過ごしていく中で、教師になりたいという意志

は日々強くなっています。これまで私を支えてくれた人たちに感謝しながら、学んだことを活かし、子どもたちに理科を楽しいと思ってもらえるような教師になりたいと思います。

## 免P = 教育職員免許 取得プログラム

本学大学院修士課程の入学者で、教員免許の取得を希望する人を対象として、長期履修学生制度を利用して、3年間で大学院の教育課程と学部の教員養成カリキュラムの単位を修得することにより、教員免許状取得の資格を得ることができるプログラムです。



■聞き手・文(写真左より)

大学院1年 学校臨床研究コース(学習臨床研究) 竹島 里香  
大学院1年 学校臨床研究コース(学習臨床研究) 西澤 里咲  
(中央・本人)

大学院1年 学校臨床研究コース(学習臨床研究) 中川 真菜美  
大学院1年 学校臨床研究コース(学習臨床研究) 尾石 夏海

## インタビューを終えて

今回は学習臨床研究領域の1年生の女子会を開催して、平澤さんにインタビューしました。平澤さんは大学院学生協議会の会長として院生をとりまとめ、活動の企画や運営を行う、学習臨床研究のみならず他コース等からも頼られるリーダー的存在です。また、授業後に毎日学校に遅くまで残って勉強している学習臨床研究一の勤勉家でもあります。そんな彼女と学習臨床研究と一緒に学び合えることは私たち同輩にとっても本当に良い刺激となっており、ありがたく思います。今後も共に学び自分の目指す教師像に向かって、できる限り多くの知識と経験を積んでいきたいと思います。



アンケートにご協力ください  
公式ホームページにおいて本誌に関するアンケートを実施しています。左のQRコードを読み込むことで、携帯端末からもご回答いただけます。  
QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。



JUEN 上越教育大学学園だより  
2015 秋 No.32 (平成27年10月発行)

編集・発行  
上越教育大学情報・広報委員会  
デザイン・監修  
安部 泰  
(芸術・体育教育学系 准教授)  
制作  
株式会社桐朋

お問い合わせ先  
上越教育大学広報課  
〒943-8512  
新潟県上越市山屋敷町1  
TEL 025-521-3626  
FAX 025-521-3627  
E-mail kouhou@juen.ac.jp  
URL <http://www.juen.ac.jp/>  
公式ホームページから、  
バックナンバーの閲覧ができます。



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

※本誌掲載の文書・記事・写真等の無断転載はお断りします。